

研究課題名	患者のadvocaterとしての救命救急センター看護師の役割～専門看護師の倫理調整の経験から～
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急センターICU 氏名 中村 真依子
研究期間	(西暦) 2023年 6月 ～ (西暦) 2023年 7月
研究の意義・目的	<p>【目的】 延命治療を望まないという心疾患を有する患者の意向と、できることは何でもしてほしい、と訴える患者の家族の両者の異なる意向について、専門看護師として行った倫理調整の経験から、患者のadvocaterとしての救命救急センター看護師の役割について考察する。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>【方法】 倫理調整のために用いた方略は以下の通りである。 ①患者の意向を確認すべく、患者のナラティブを聞き出しながら、病気に対する思いや、どのように人生の最期を迎えたいかなど、また、家族とこれまでに“もしもの時のこと”を話したことがあったかについても確認した。 ②当時は面会が制限されていたため、入院時の家族の状況をよく知る主治医に患者の病状や治療方針に対する家族の反応について確認した。また、医師間で患者の治療方針についてどのように話し合われているのかについても確認した。 ③緊急カンファレンスを開き、看護師間で情報を整理し、患者の発言を共有できるようカルテに詳細に残すよう他の看護師に働きかけた。 ④Jonsenの臨床倫理4分割表を用いて情報を整理し、主治医へ患者の意向を伝え、患者と再度話し合い、科内の医師と治療方針について相談し、家族とも面談をしてもらうよう働きかけた。 なお、本事例の倫理調整で専門看護師が介入した期間は2023年3月1日～10日までである。</p>
①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①実践報告として、第25回日本救急看護学会学術集会にて本症例を発表するにあたり、患者の匿名性を遵守し、不利益を被ることが一切ないよう十分な倫理的な配慮を行う。 ② <ul style="list-style-type: none"> ・患者基本情報 (年齢、性別、診断名、既往歴、家族構成) ・死生観 ・治療の意思決定に関する患者の価値観 等 実践報告にあたり利用する試料・情報は患者情報として電子カルテの内容を使用するが、匿名性を遵守し個人が特定されることのないよう配慮する。 ③研究責任者：救命救急センターICU 中村 真依子 ④研究責任者：救命救急センターICU 中村 真依子
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急センターICU 氏名 中村 真依子 TEL：0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX：0422-32-3525